

令和8年度 第2回可美小学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和8年7月24日（金）10:00～12:00
- 2 開催場所 可美小学校 きくももホール
- 3 出席委員 大畑尉智子 小野田和弘 杉本真弓 小野田哲也 城取良隆
越川真優子（学校支援CD兼務） 神田綾乃（学校支援CD兼務）
- 4 欠席委員 なし
- 5 オブザーバー 小野田康弘（浜松市議会議員） 村上昌義（可美協働センター長）
- 6 学 校 大石泰三（校長） 高木悦代（教頭） 浅井美幸（主幹教諭）
長谷川明美（CS担当教諭） 河合昭子（CSディレクター）
他 31人
- 7 傍聴者 なし
- 8 会議録作成者 CSディレクター 河合昭子
- 9 開催要件の確認 司会の高木教頭から委員総数7名全員の出席があり、過半数に達しているの
で会議が成立している旨の報告があった。
- 10 議長選出 大畑会長で前回決定している。全員了承。
- 11 協議事項 (1)学校評価の中間報告について
(2)地域と連携・協働した教育活動について
教員を交えて話し合い

12 会議記録

(1)前期学校評価について、別紙資料に基づき、浅井主幹から説明があった。

学校評価の結果が①高かった項目…さらに伸ばすためには ②低かった項目…伸ばすためには
③教員の働き方改革の取り組み 3項目について、教員を交えて学年ごとに話し合いを行った。

《なかよし》

①「安心して楽しく学校生活を送っている」

- ・先生に近い子が多い
- ・よい距離感・関係作りができています。

②「明るいあいさつや正しい言葉づかいをしている」

- ・あいさつの仕方を教える。どういう場でどのようなタイミングであいさつすると良いのかも教えることが大切。

③紙媒体からICTの活用が進んでいるが、ICTの使い方を覚える時間がほしい。

《1年》

①「安心して楽しく学校生活を送っている」

- ・外遊びが楽しい、友達との関係が楽しいと感じている。教師が工夫、支援していく。
- ・楽しくないと答えた子は、どうしてかを探っていきたい。

②「授業の内容がわかる」

- ・ひらがなが読めるか読めないかで差が出来ている。個別にしっかり支援する時間をとる。
学校でも家庭でもほめて伸ばす。自信をつけさせる。

③子供の人数が多いのに、教員の数が少ない。人手不足。

電話回線が少ない。回線が増やせないのも、学校専用携帯電話があると良い。

《2年》

①「将来に向かって、今できることを頑張っている」

・現状は「将来に向かって」を子供たちは意識している？

キャリアパスポートを活用する。将来を大きな目標、小さな目標と細かく分けて指導することが大切。学習の場でも、目的意識をもたせてあげる。

②「明るいあいさつや正しい言葉づかいをしている」

・あいさつをしても返ってこないことがよくある。大人がお手本になり、あいさつすることの良さを伝えていく。暴言が多い→ゲームの影響もある。言葉の重みがなくなっている。道徳の時間を活用して言葉の大切さを指導する。

③低学年は目が離せない。休憩時間を確保することもできない。給食も急いで食べている状況。人手不足を解消できれば良い。

《3年》

①「授業が楽しい」

・ICTが使える、体験しながら学習する活動が楽しい。わかって楽しいにレベルアップが必要。→友達と話し合う活動や児童の興味を取り入れた授業をし、やる気につなげる。

②「苦手な食べ物でも食べようとしている」

・食べず嫌いが多い。多面的に声掛け「命を大事にしよう」チャレンジすることが大切。

③事後対応は時間もかかり大変。家庭と連携を取りながら、事前に対応していくことが大切。

《4年》

①「安全や健康に気を付けて生活している」

・子供と教員の評価にギャップを感じる（教員厳しめ）。大きな事故やトラブルになっていないがケガにつながる指導が多いのが現状。先生たちから、指導を受けているので、ルールは知っている。そのため、安全に気を付けて生活をしているとなったのでは？

②「苦手な食べ物でも食べようとしている」

・8割近くが食べようとしている。栄養士がほめてくれるので、頑張ろうという雰囲気がある。食べられるようになっている過程であると思うので、そこを育てていきたい。

③時間、人手が欲しい。

《5年》

①「安心して楽しく学校生活を送っている」

・学校生活のベース「明日も学校に行きたい」という雰囲気作り。

・一人一人が認められていることで、安心につながる。たくましさを育てる。

②「進んで外遊びや体力作りをしている」

・遊ぶ手段が増えたことによる外遊びの減少。

・体育科の授業を頑張る。

・遊びの中での体力作りが大切。

③事務作業、放課後対応に追われている。教員の行うべき仕事を絞るのが大切→学校のありのままの状態をもっと知ってもらうことが大切ではないか。

《6年》

①「きまりや約束、マナーを守って生活している」

- ・最上級生になって、自覚が芽生えてきた。
- ・ペア活動で、低学年の子たちに対し、気に掛けることが増えた。ペア活動を大切にしたい。

②「進んで外遊びや体力作りをしている」

- ・委員会、実行委員会、1年生の教室へ行ったりとやることが多い。
- ・暑さのため難しい。涼しくなったら1年生を誘って外遊びを増やしたい。
- ・中学校に上がるので、体力をつけておきたい。

③高学年は行事が増えて、仕事量も増える。子供たちのため行事は減らせないので、人手が増えたらいい。登校時刻が遅くなるという。空き時間が増えるという。デジタルテストは良い。改善できることからやり始める。

13 熟 議（前期学校評価についての振り返り）

- ・安心して過ごせているのは成果。働き方改革については、休み時間とか普段の様子も見てもらいたい という声があった。

学校を開くという意味からも、参観会週間を作り、いつでも来てもよい時間を作ってみるのはどうか。（杉本副会長）

- ・先生たちは時間の確保が難しいことがわかった。1年生は1クラスの数が多いので、目が届きにくいとのことだった。放課後電話回線が少ないとのことなので、回線を増やしたり、職員用携帯を配置できるか？（小野田哲委員）

→2回線しかないの、仕事を段取り良く進めても、保護者への連絡に使いたいが、電話があかないので終われない。（校長）

→業者に調査を依頼したところ、今から回線を増やすのは難しいとのことだった。（教頭）

→インターネット回線はどうか？（小野田オブザーバー）

- ・人と会うことは大切。先生たちと話をし、トラブルが起こる前に対応できることが大切。色んな技術は発達してきているが、直接会って話して信頼関係を作ることが大事だと思う。

（城取委員）

- ・働き方改革について。低学年ほど大変で、トイレに行く暇もないとのこと。給食も急いで食べる現状とのこと。子供たちのための改革であってほしい。2年生はあいさつの出来ない子が多いそうだが、朝のあいさつ運動なども支援することができるという。（神田委員）

- ・「明日また来なくなる学校」居場所作りの効果が出てきている。（越川委員）

- ・評価A～Eの判断は主観が大きいと思う。先生たちの判断の指標があれば、評価はある程度一貫性が見られるのではないかと。工夫しながら評価の精度を上げてもらいたい。

（小野田オブザーバー）

- ・6年生の話し合いグループにいたが、ニーズをくみ取り支援できればと思う。

（村上オブザーバー）

- ・夏のサマーフェスタでは、暑い中、可美音頭を踊ってくれて、可美の子供たちが盛り上げてくれた。楽しかった。（小野田和委員）

- ・評価は大人と子供の目線に差が出るのは仕方のないこと。その差は子供への指導を考えるための評価だと思う。(大畑会長)

14 報 告

CS コーディネーターより

- ・家庭科ボランティア、水泳見守りボランティア等を行った。

振り返りの会を行った。家庭科は、教員もボランティアも慣れてきて、より良い活動につながっている。水泳はボランティアの方がいるかどうか当日にならないとわからないので、ゼロの日をなくしたい。ボランティアの方に強制、負担にならないよう、聞き方など募集方法を検討したい。

→前日に水泳ボランティアがいなかったことがわかれば、来ることが出来る。協力したいと思っている。(大畑会長)

- ・初めてCS 講座を開催する。夏休み8月5日(水)に居場所作り、食育の観点から三立製菓のかにばんお姉さんの講座を開催することになった。

→ボランティアの集計を出した。のべ232人の方がボランティアに来てくれた。家庭科5年生を担当しているが、とても充実した学びの多い時間になっている。

水泳、給食のボランティアにもたくさんの方に来てもらった。1学期色々な事ができたので2学期も続けていきたい。(長谷川教諭)

教頭より欠席者について

- ・欠席者は月曜日が多くて、水曜日に少なくなる傾向がある。

→ラーケーション 休みにつなげて取る人が多い。(校長)

- ・はあと(校内まなびの教室)が出来て、欠席者が減った。

15 連 絡

(1) 次回開催日時 令和8年12月9日(水) 10:00~12:00 きくももホールにて

(2) 次回の熟議内容「全国学力状況調査を振り返って」

「学校運営に必要な支援について」